

「南三陸町の復興まちづくりに関する意向調査」 集計概要（8月1日現在速報値から抜粋）

※今後の集計の進捗により、大きく変更される場合があります。

【調査概要】

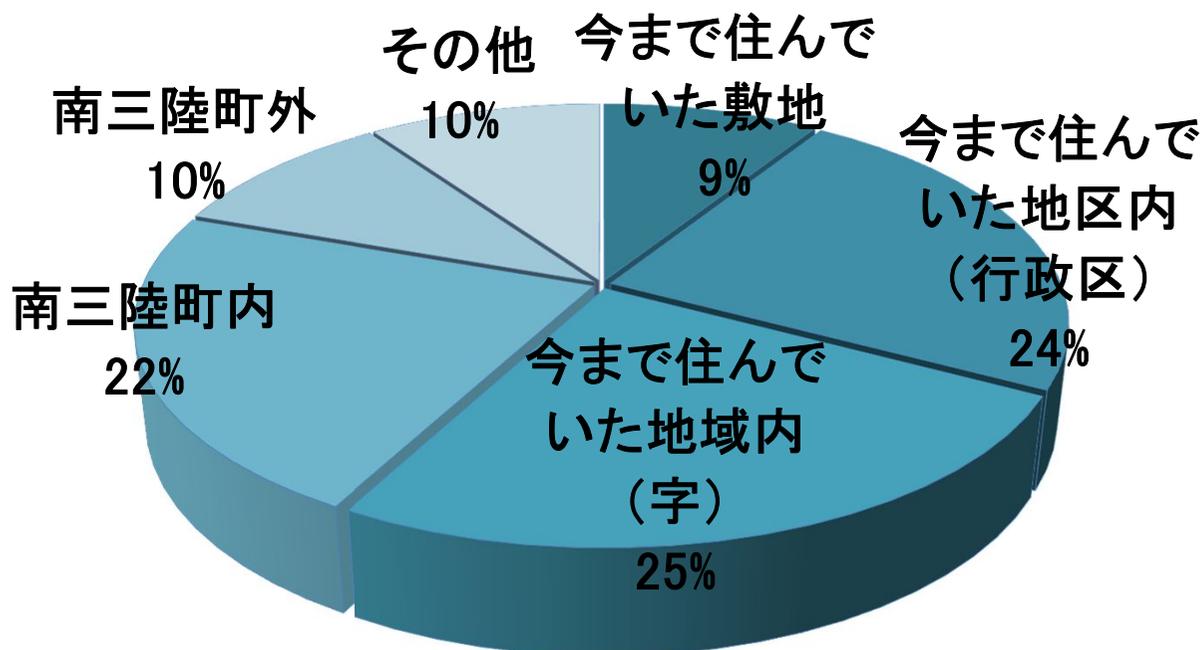
- 調査目的 主に被災された方々のお住まい等に関する意向を把握し、町の震災復興計画づくりの参考とするほか、被災された方々などへの各種支援のための基礎資料とする
- 調査地域 町内全地域
- 調査対象 全世帯（代表者が記入）
- 調査方法 質問紙を用いた記述回収による調査
- 回収状況 回収数3,316 / 配布数 5,327（回収率 62.2%）
- 調査期間 平成23年7月1日（金）～7月15日（金）
※期間後も回収を継続している。

1

住まいの移転場所に関する考え方

◆ 主に津波で家を失った方で、今後も元の敷地に住み続けたい人は、約9%と低い一方で、元の行政区内(約24%)、元の地域内(約25%)、南三陸町内(約22%)と合わせると約8割の方が南三陸町に住み続けたいと考えている。

問) 今後、あなたはどこに住みたいと思っていますか？ (住まいに被害あり、流失の方)

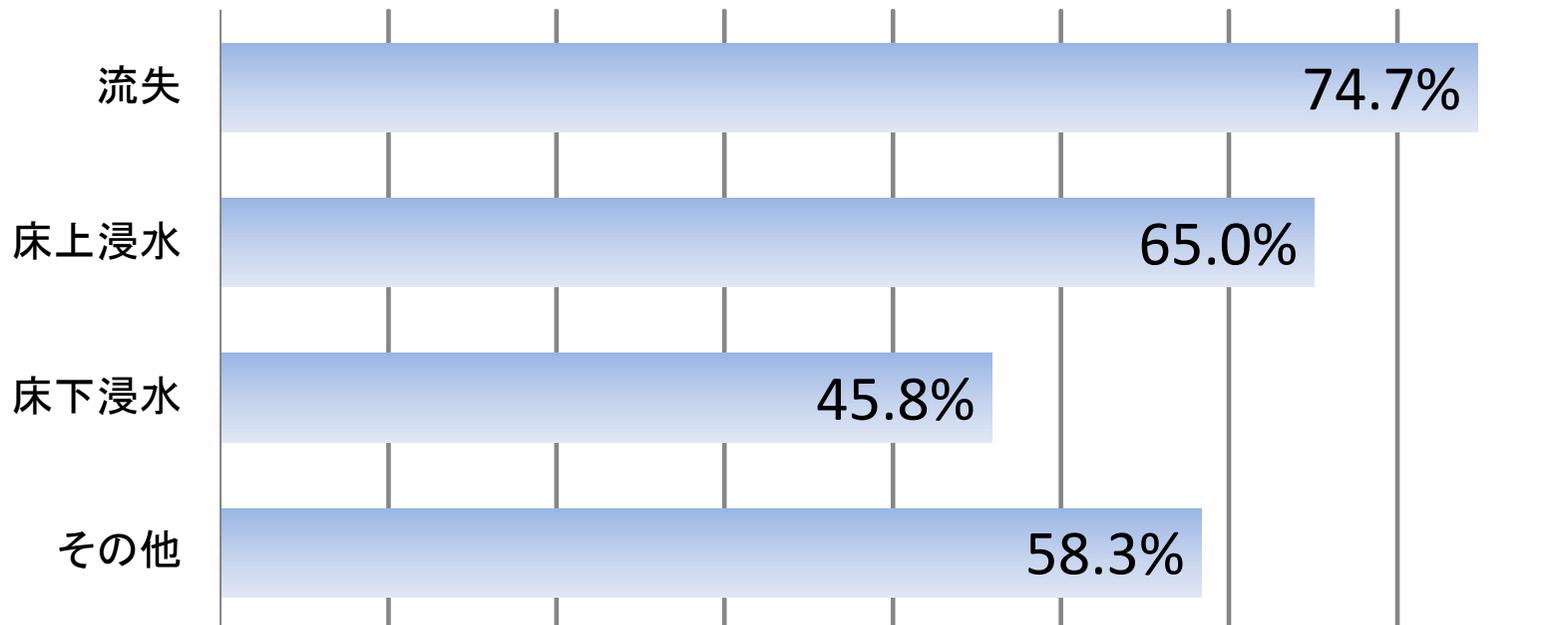


②

住まいの移転場所に関する考え方

◆主に津波で家を失った方のうち、自然災害に強いまちづくりで重要なこととして「住まいの高所への配置」を選んだ方は、約75%。

問)「自然災害に強いまちづくり」を推進するために、どのようなことが重要だと思いますか？
(住まいに被害あり、被害の主な原因別)

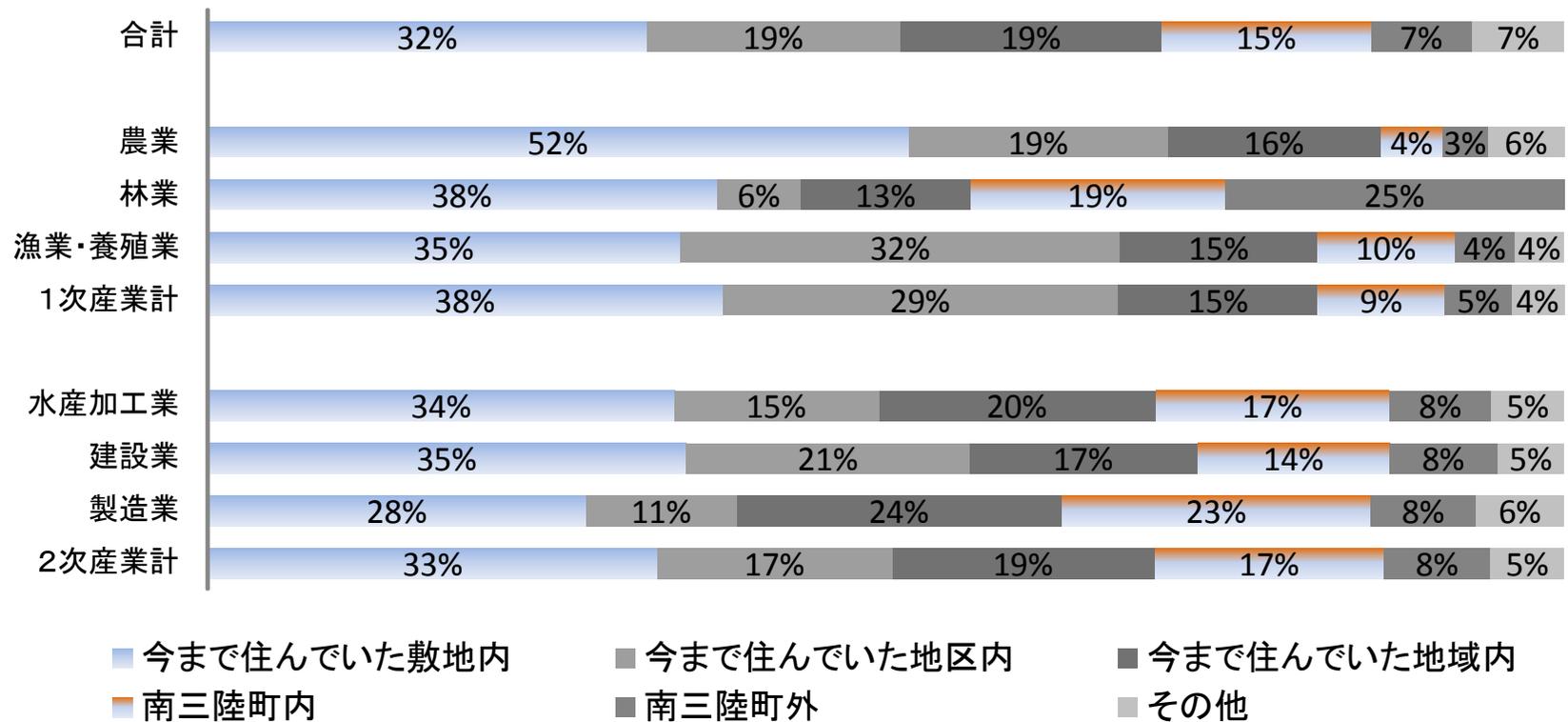


3

住まいの移転場所に関する考え方

◆ 移転先を職業別に見ると、農業の方は「今まで住んでいた敷地」を考えている人が多い(約52%)。

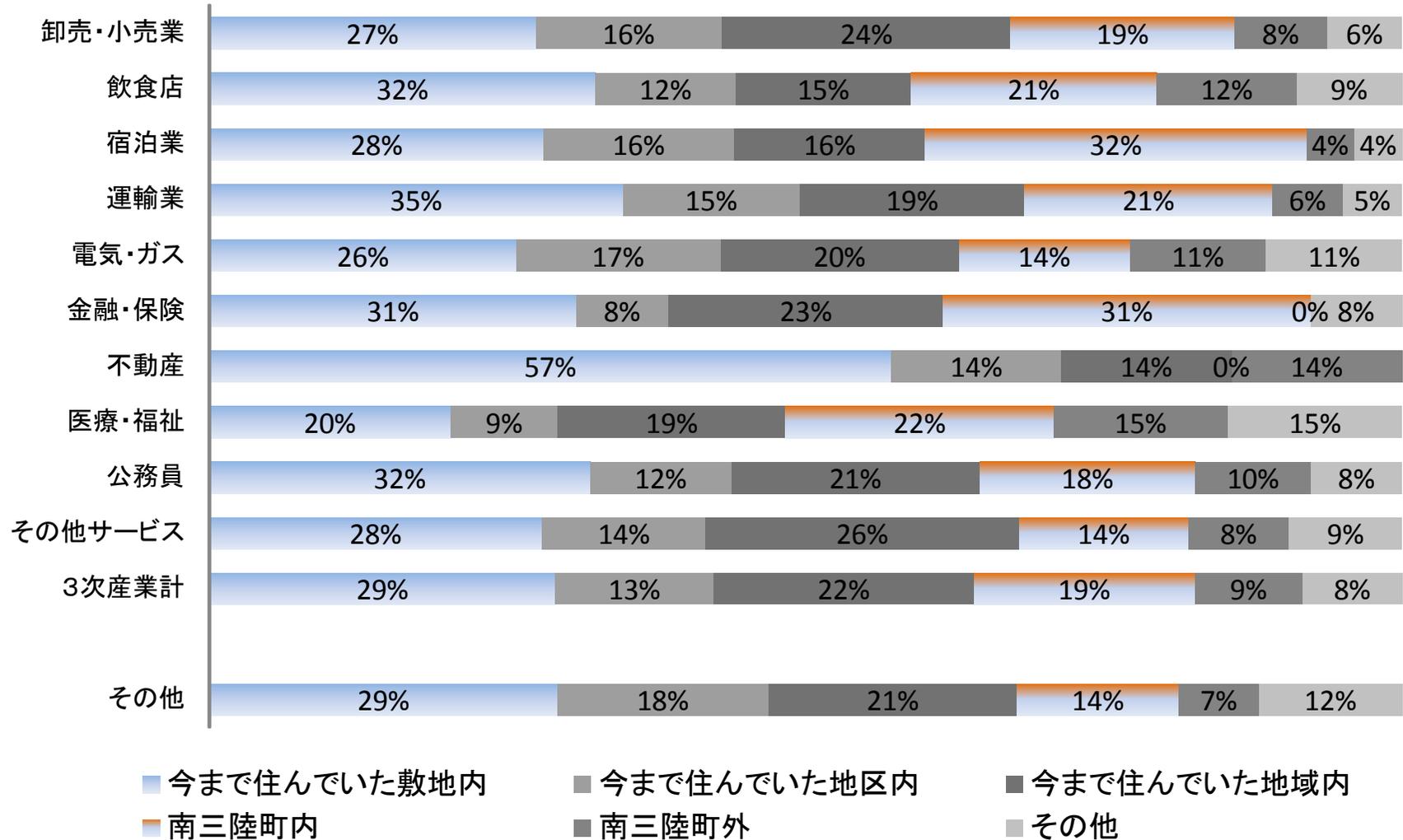
問) 今後、あなたはどこに住みたいと思っていますか？ (職業別)



4

住まいの移転場所に関する考え方

問) 今後、あなたはどこに住みたいと思っていますか？（職業別） ※前頁の続き

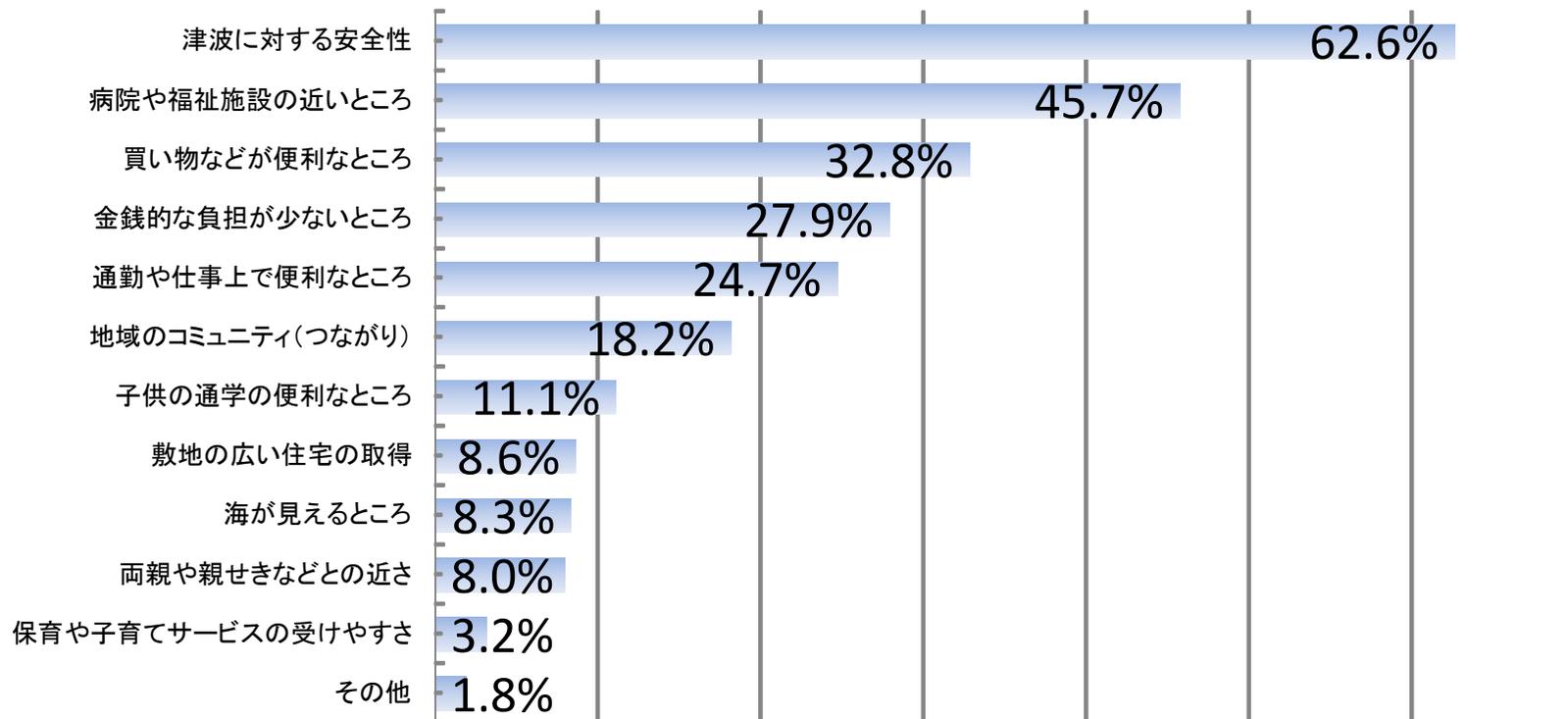


5

住まいの移転場所に関する考え方④

◆ これから住みたい場所を選ぶ際に重視することで、最も多かったのは「津波に対する安全性」(約63%)。次いで「病院や福祉施設の近いところ」(約46%)、「買い物などが便利なところ」(約33%)が多い。

問) これから住みたい場所を選ぶ際に、重視することはどんなことですか？(複数選択)

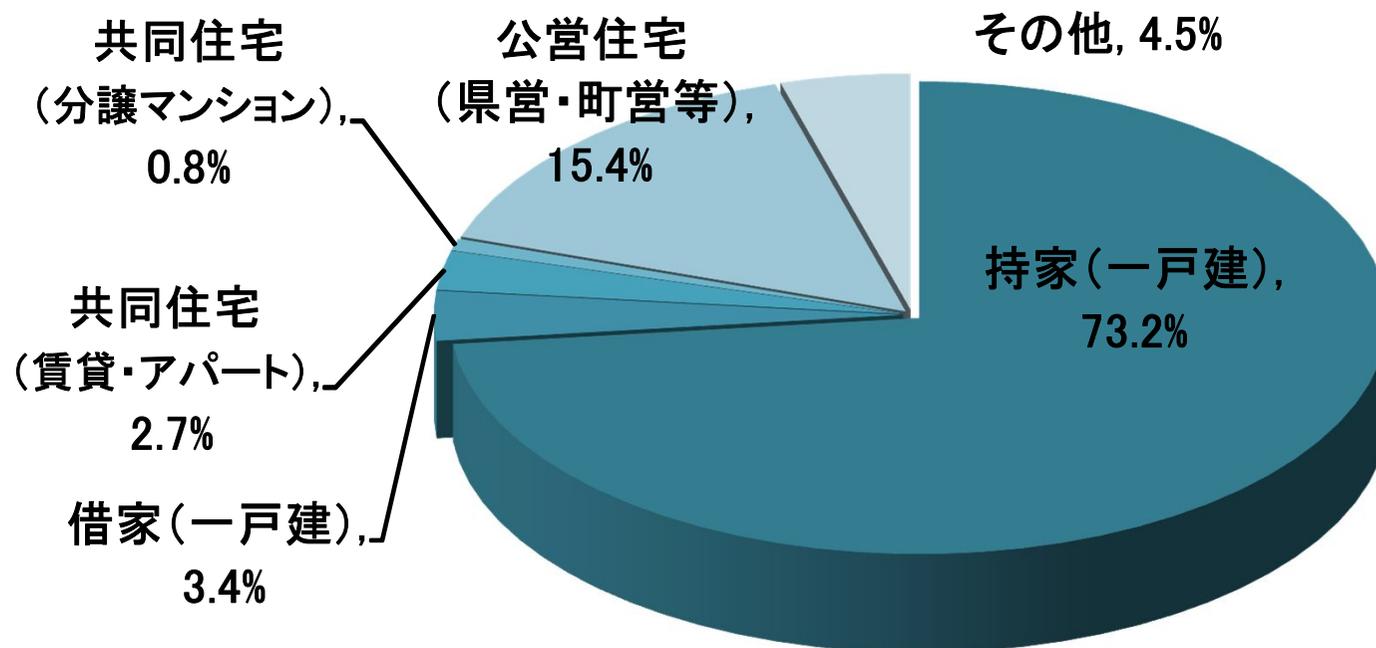


6

これからの住まいに関する考え方

◆主に津波による浸水被害を受けた方の住まいの再建方法については、「持家（一戸建）」を希望する人が約7割と最も多く、次いで「公営住宅」を希望する人が約15%いる。

問) 今後、あなたが希望するお住まいはどのようなものですか？（被害あり、全壊・全焼・大規模半壊）

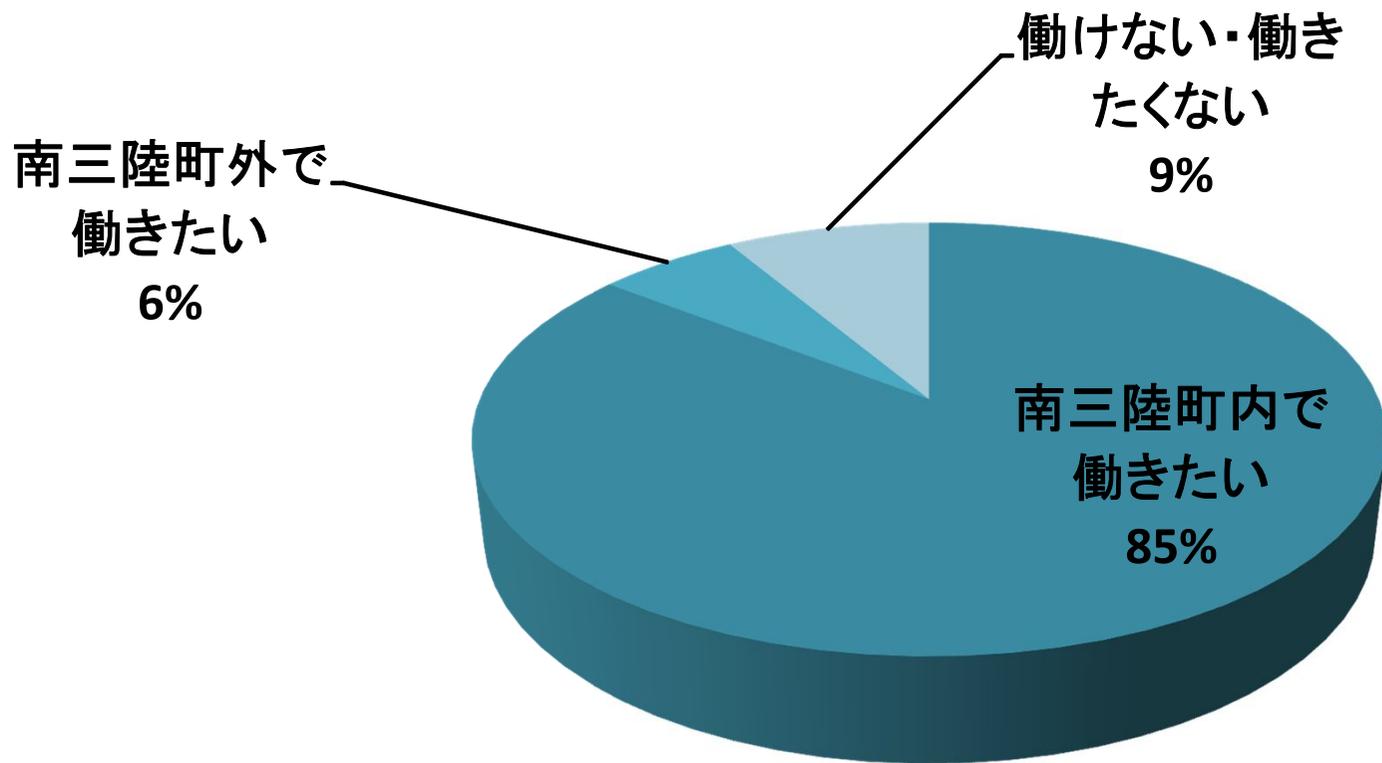


7

仕事に関する考え方

◆ 南三陸町内で働いていた方のうち約85%の人が、今後も南三陸町内で働くことを希望している。

問) 今後の就業場所の意向は？ (震災前に南三陸町内に住んでいた方)

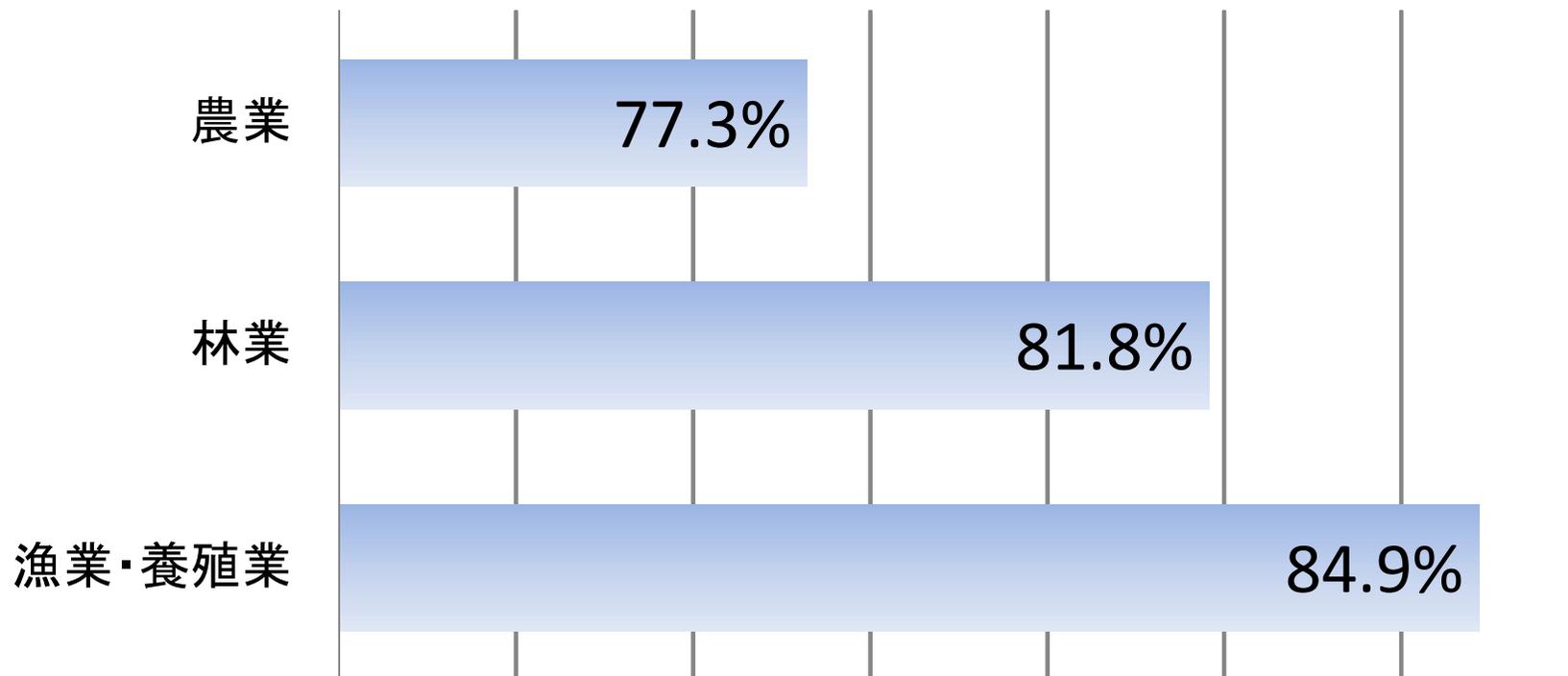


8

仕事に関する考え方

◆ 第1次産業で、今後も震災前と同じ職業に就きたいと希望する方は、漁業・養殖業が約85%と最も高い。

問) 今後、どのような職業を希望しますか？ (震災前に同じ職業で働いていた方)

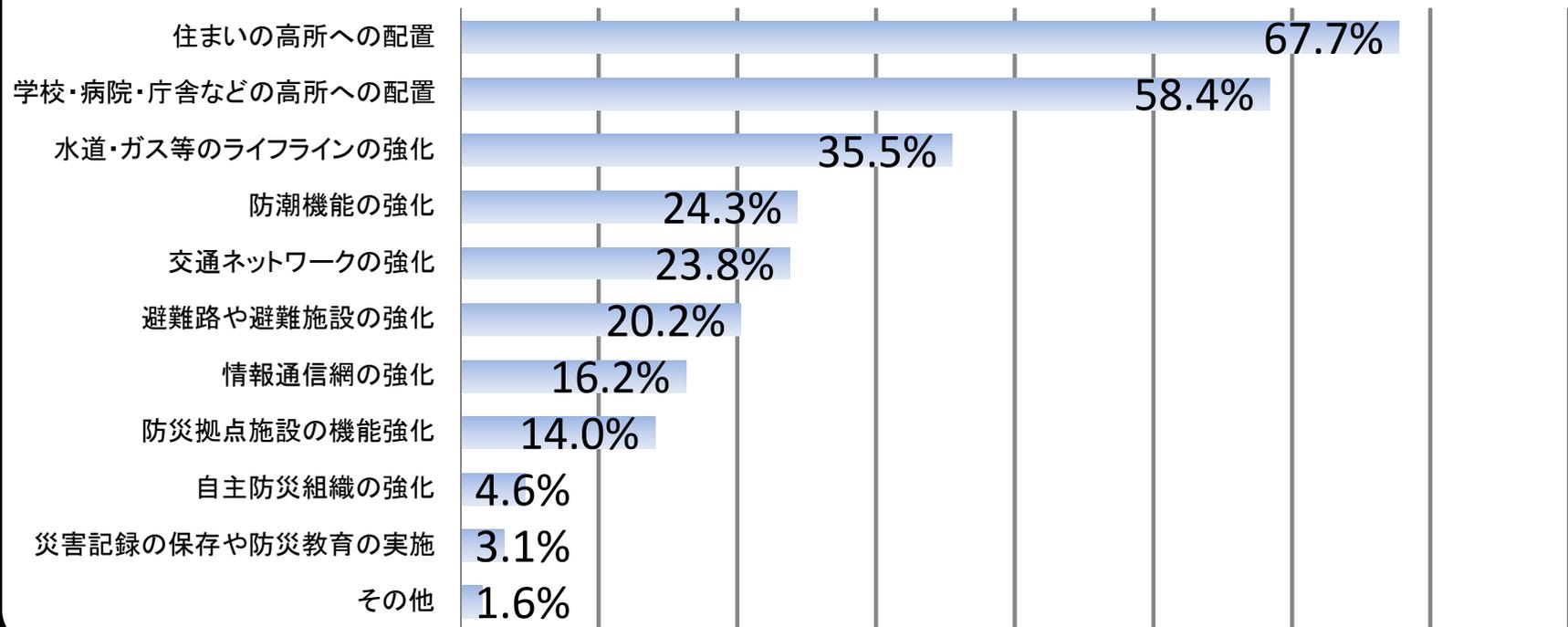


9

まちづくりに関する考え方

◆ 自然災害に強いまちづくりを進めるうえで重要なことで、最も多かったのは「住まいの高所への配置」(約68%)。次いで「学校・病院・庁舎などの高所への配置」(約58%)、「水道・ガス等のライフラインの強化」(約36%)が多い。

問)「自然災害に強いまちづくり」を推進するために、どのようなことが重要だと思いますか？(複数選択)



10

まちづくりに関する考え方

◆ 新しい南三陸町の復興まちづくりについて望むことで、最も多かったのは「保健・医療・福祉の充実」(約66%)。次いで「漁業・養殖業及び水産加工業の復興・強化」(約40%)、「復興住宅(公営住宅)の整備」(約40%)が多い。

問) 今後の南三陸町の復興まちづくりについて何を望みますか？(複数選択)

